

犬鷲新聞

発行者

岩手大学附属中学校
三年
小原維心

盛岡で二年振りの快音

きたぎんBP×浅村栄斗Ⅱ最強

九月六日、きたぎん
ボールパークで楽天イ
ーグルス対読売ジャイ
アンツのイースタナリ

ーグファーム公式戦が行われた。

イーグルスはジャイアンツに先制点・追加点を許してしまい、点差を広げられる。

しかし、六回裏に浅村選手のバットから快音が響いた。高々と上がった打球は観客の歓声と共にぐんぐん伸びていき、右翼スタンドに突き刺さる。第五号のソロ本塁打となった。盛岡では二年振りの一発となり、一軍復帰を期待させるものとなった。

イーグルスの投手陣も力投を見せた。ジャ

イアンツ打線を八回・九回と無失点で抑え、逆転勝利を信じて野手陣に託す。
そして九回裏に代打

島内選手の二塁打、代打永田選手の適時打が飛び出すも、あと一本が出ずにチームは五対二で敗れてしまった。

野球で繋がる

一生の宝物

九月六日、ファーム公式戦終了後に選手ふれあいイベントが開催された。

僕はいくつかの候補の中から、選手とキャッチボールができるイベントを選んだ。



万事塞翁が馬

皆さんは小郷裕哉選手をご存知だろうか。

小郷選手は昨シーズンの十二球団で唯一のフルイニング出場を達成している選手だ。そんな小郷選手の座

右の銘は「人間万事塞翁が馬」である。小郷選手はこの言葉を大切にし、目先の結果に一喜一憂しないことを心がけている。

プロ野球は一シーズに百四十三試合あり、さらにはプロ野球選手の平均寿命は約九年。つまりは、一試合の結果に一喜一憂してはプロ野球という大舞台で結果を出すことはできない。一握りの選手にしかれないプロの中でもイーグルスの選手たちにはさらにトップの選手になっ

てほしい。

選手を待っている間、うまくできるかドキドキしていた。すると選手が数人出てきた。僕の並んでいる列には辰見鴻之介選手が来た。実は、僕は辰見選手のファンなのだ。

自分の番になり、辰見選手の球を受ける。大好きな選手と野球で繋がる事ができる。これが僕にとってとても嬉しかった。その後、辰見選手に「うまいね。」と褒められた。僕はそれにびつくりした。プロの選手から褒められる経験はなかなかできないと思う。だからこそ一生忘れないようにしたい。